

平成28年12月22日

黒松内町長 鎌 田 満 様

黒松内町まちづくり推進委員会
委員長 池 田 重 人

町民幸福度調査に関する答申について

平成26年6月2日付け黒企号で諮問のあった町民幸福度調査について、下記のとおり答申いたします。

記

1 町民幸福度調査について

黒松内町まちづくり推進委員会では、平成26年6月2日に黒松内町長からの諮問に基づき、町民幸福度調査に関する検討を始め、先行取組事例の分析や、有識者による講演会や意見交換会などによる協議を重ねて参りました。

その結果、町民の現状を把握するための意識調査を行ったうえで、総合的な幸福度を指すために、平成28年10月から11月にかけて町民500名を対象（無作為抽出）としたアンケートを実施しました。

また、その結果については、町民の幸福度の原因・要因を探り、町民の幸福度を支えるにあたり良い点、悪い点などを明確にすること、また、一人ひとりのしあわせだけでなく、黒松内町全体のしあわせを深めて、今後黒松内町が理想の姿に向かっていくための手がかりとして指標を策定いたしました。

【※別添資料・・・・黒松内町幸福度アンケート】

2 町民の幸福度について

私たちが暮らす黒松内町の景色、産業、歴史、文化、人は、これまでこの町で暮らしてきた人々が愛し、守り、育て残してきた財産です。

足下の良さに気付き、この町で暮らすことを誇りに思い、この町の暮らしを愛する人を増やしていくことや、一人ひとりが自分たちはまちの一員であると気付き、まちと自分の関係を一步前に進めてもらうためにも大切にしていかなければなりません。

今回のアンケート調査結果は、総合的に勘案すると町民の幸福度は全国・北海道と比較しても非常に高い事が解りました。ただ、黒松内町民は『やってみよう』『ありがとう』『なんとかなる』『あなたらしく』『ほっとする』の5つある幸福度因子の中で、特に『やってみよう』の因子が低いという傾向にありました。この因子は『得意としていることがある』『目的・目標をもってやっていることがある』と町民自身が感じているか調査した項目です。

黒松内町民は目立ちたがり屋や、出たがりが少なく、どこか謙虚で控えめタイプの町民が多いようです。一方で自分の好きな事に熱中している人が多く、目標をもって頑張っている人を応援する地域性が非常に高い事もこの調査で解りました。それぞれの場面で一人ひとりの個性や特技を活かせる機会をつくり、目標を持ち、やってみようという挑戦する『主役』を増やし、それをみんながあたたかく応援していくことが、黒松内町民の幸福度を最大化にすることにつながります。すべての人に出番があり、すべての人が感謝される。補欠なしのみんなが主役になれるまちづくりを推進しなければならぬと考えます。

3 今後に向けて

この度の黒松内町幸福度調査を通じて、黒松内の姿や町民の暮らしの現状を確認することができました。この結果は行政サービスの改善や政策づくりなどの参考としての利用はもちろんですが、その活用だけにとどまらず、調査は黒松内で生活している町民のために行っており、それは町民のものであり、黒松内町のしあわせにつながる地域活動などに利用できるよう積極的に活用していくことが大事であると考えます。

多くの町民に本調査を知ってもらうことで、今後、黒松内のまちづくりのためのアイデアを出したり、何をすべきか町民と職員が協働に考えて、行動に移していくことができると考えます。

これらを踏まえ、下記3つの取組みが必要と考えます。

1. 定期的な調査の実施による幸福度の傾向の把握と政策決定の活用

一定期間（概ね3年程度）ごとに、継続的にこの調査を実施し、結果を公表することで、定期観測的に町民の状態、変化を把握することが大変重要であり、今後のまちづくりを町民の皆様と考えていくための道具として調査結果を活用する。

さらに、性別や年代別などから、幸福度において、どのような指標が高いのか、逆に課題の多い指標は何かなど詳細な分析を加え、今後の政策立案に向けた基礎資料として活用する。

2. 『知り・気付き』のきっかけとして、調査結果を公表

本調査結果について、町民一人ひとりが黒松内の「知り・気付き」を発見、再確認し、地域活動に役立ててもらえるよう、広く町民の皆様に公開する。

3. 調査結果をまちづくりに活用

人口減少の克服という大きな課題に向けて、国と地方が総力をあげて取り組むための指針となる地方創生の総合戦略において、本町ならではの幸せを考え、日々の暮らしから幸福を実感できる社会を実現するという視点を黒松内町地方版総合戦略と共有し、人口減少の歯止めをかけるための道具として活用する。